



ピアニスト100

100人を聴く10年、ついにフィナーレ

音楽監督:中村紘子
彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

10年で100人のピアニストを紹介する前代未聞のプロジェクト「ピアニスト100」。後半の第51回(2002年4月)からは、音楽監督に世界的ピアニストの中村紘子さんをお迎えし、バラエティに富んだ人選でご紹介してきたが、いよいよ3月で幕を閉じる。99番目にはレイフ・オヴェ・アンスネスさんが登場。そして、昨年11月に行われた「第6回 浜松国際ピアノコンクール」第1位のアレクセイ・ゴルラッチさんが、どこよりも早く、この彩の国さいたま芸術劇場でリサイタルを行う。

100 /100 ピアノ界の未来を託して、
フィナーレを飾る若き期待の星

アレクセイ・ゴルラッチ

(ウクライナ)

「ピアニスト100」シリーズの最後を飾るピアニストは昨年11月に開催された第6回浜松国際ピアノコンクールの優勝者アレクセイ・ゴルラッチ。ガヴリリョク、コプリン、プレハッチなど素晴らしい才能を発掘してきたHAMAMATSUから生まれた新しいスターだ。ウクライナ生まれの18歳。両親の仕事の関係で4歳からドイツで暮らしている。ピアノを始めたのは7歳のとき。優れた教師の下で恵まれた才能を開花させ、一昨年は最年少の17歳でショパン国際ピアノコンクールに参加して第2次予選まで進み、その瑞々しい音楽性で注目を集めた。彼の魅力は、美しい音色と素直で正統的な音楽づくり。それに加えてステージに現われただけで周りを明るくするような爽やかな容姿。浜松のコンクールでは、超絶技巧系のロシアものやリストの作品を演奏する参加者が多い中で、ベートーヴェンを中心にした地味なプログラムを選んで真摯に自分の音楽を追求する姿が印象的だった。シリーズの最後を飾るにふさわしい未来を担うピアニストの出現を心から喜びたい。 文・森岡 葉 (音楽ライター)



Alexej Gorlatch

●PROFILE

1988年5月23日生。ウクライナ、キエフ出身。G.ゲオルギュー、M.ヒュッハ、K=H.ケマーリングに師事。2002年エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール、2003年ハンブルグ・スタインウェイコンクール第1位、2006年国際アウグスト・エファァーディングコンクール(ミュンヘン)第1位、第6回浜松国際ピアノコンクール第1位及び日本人作品最優秀演奏賞を受賞。現在ハノーファー音楽大学在学中。

【日時】3月10日(土) 開演 16:00

【曲目】シューマン: 幻想小曲集 Op.12
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第28番 イ長調 Op.101
徳山美奈子: ムジカ・ナラ ~ピアノのために~
ショパン: 12の練習曲 Op.10

【チケット(税込)】 好評発売中

一般 S席 3,000円 A席 2,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 2,700円

99 /100 音楽への直截な情熱
傑出した存在感をもつ北欧の俊英

レイフ・オヴェ・アンスネス

Leif Ove Andsnes (ノルウェー)



第99回に登場するのは、ノルウェー出身のレイフ・オヴェ・アンスネス。北欧ノルウェーは作曲家グリーグの祖国として知られるが、ピアニストを次々に排出した歴史はない。そのためちょっと珍しいピアニストかと思いきや、演奏を聴いてみると実にノーマルでオーソドックスで、ヨーロッパの最も正統的な音楽を再現してくれるピアニストである。

彼のレパートリーはグリーグやシベリウスなど北欧の作品はもちろん、ラフマニノフなどのロシア作品、他にはベートーヴェン、シューベルト、ショパン、ブラームスなどが中心で、一般的なレパートリーと言えるもの。ところがCDを見てみると、全体数の割に協奏曲や室内楽が多いように思われる。さらにユニークなのは、ソロの余白に歌曲を添えたりと、アンサンブルの領域を積極的に取り入れていることが伺える。

ピアニズムばかりではなく、音楽のより総合的な視点を大切にする“音楽家”のピアノからは、作品の本来の姿を素直に感じさせてくれるであろう。 文・諫山隆美 (音楽評論家)

●PROFILE 1970年ノルウェー生まれ。ベルゲン音楽院でイルジー・フリンカ氏に師事。90年代初めに世界デビューして以降、一流オーケストラ・指揮者との共演、リサイタル、室内楽などで活躍。リゾール音楽祭の共同芸術監督として世界的なアーティストを招く一方、自身も欧州各地の音楽祭の常連。レコーディングも数多く、3度のグラモフォン・アワード受賞歴を持つ。2002年ノルウェーで最高の荣誉とされる聖オラフ・ロイヤル・ノルウェー上級勲章受賞。

【日時】2月10日(土) 開演 16:00

【曲目】シベリウス: キュリッキ ー 3つの抒情的小品 Op.41
グリーグ: ノルウェー民謡による変奏曲形式のバラード 短調 Op.24

シェーンベルク: 6つの小さなピアノ曲 Op.19
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第32番 短調 Op.111
★中村紘子音楽監督によるトーク付き

【チケット(税込)】 好評発売中

一般 S席 4,000円 A席 3,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円

仲道郁代 ~デビュー 20周年を記念して~ ピアノ・リサイタル

日本を代表する人気ピアニストのひとり、仲道郁代さんが彩の国さいたま芸術劇場のための特別プログラムで登場。このリサイタルに寄せられた仲道郁代さんのメッセージには、ピアノへの熱い想いが込められている。

MESSAGE

彩の国さいたま芸術劇場で、デビュー20周年記念コンサートを行えますこと、心から嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

ベートーヴェンとともに、私自身を成長させてくださった皆さまとこれまでたくさんの思い出を重ねてきた劇場で私のこれまでの歩みを振り返りつつ、これからの私を聴いていただけるようなコンサートにしたいと願っております。

お届けするプログラムは、オール・ショパン・プログラム。デビュー以来弾き続けてきたショパン。ピアノの持つ響き、ピアノにしか出せない音の魅力、そしてピアノが表現する世界のすべてを、存分にお聴きいただくと幸いです。



© Katsuro Ueda

昨年3月まで4年間全12回にわたった、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲についてのレクチャー・コンサートで、彩の国さいたま芸術劇場ですっかりお馴染みの仲道郁代さんが、デビュー20周年を記念する今シーズン、オール・ショパン・プログラムで登場する。

ショパンといえば、「ピアノの詩人」とも称せられているとおり、その作品はピアニストにとっては欠かすことのできない重要なレパートリー。彼女にとっても、デビュー以来、いつも傍にいた作曲家である。そのショパンの作品から、バラード全曲、《2つの夜想曲》作品48、そしてソナタ第3番をチョイス。ピアノの魅力にあますところなく味あえる充実のプログラムは、ここ彩の国さいたま芸術劇場のために特別に組んでもらったものである。

IKUYO NAKAMICHI

仲道 郁代

なかみち いくよ

古典からロマン派までの幅広いレパートリーで、独奏者・オーケストラのソリストとして国内外で活躍。05年には、英国チャールズ皇太子夫妻ご臨席のもと、イギリス室内オーケストラ主催の「結婚祝祭コンサート」に出演し絶賛された。2003年からは、地域社会の活性化と音楽文化の発展を目指し、大阪音楽大学特任教授、財団法人地域創造理事としても活動中。デビュー20周年にあたる2006/2007シーズンは、全国各地で記念リサイタルを行っている。
http://www.ikuyo-nakamichi.com

仲道郁代 ピアノ・リサイタル

~デビュー 20周年を記念して~

【日時】3月4日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】
~オール・ショパン・プログラム~
バラード第1番 短調 Op.23、バラード第2番 長調 Op.38、
バラード第3番 変イ長調 Op.47、バラード第4番 長調 Op.52、
夜想曲第13番 短調 Op.48-1、夜想曲第14番 嬰ハ短調 Op.48-2、
ピアノ・ソナタ第3番 短調 Op.58

【チケット(税込)】 好評発売中

一般 S席 4,000円 A席 3,000円 学生A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円